

研究主題：主体的、対話的で深い学びの実現を目指して（3年次）

~TANKYU~

谷地南部小学校
校内研究だより
2023. 11. 1
No.36 文責 荒木秀

第6学年 自由進度学習 国語科 社会科 総合的な学習の時間

6年 授業研究 成果と課題

見取りをどうするか

- ・事前研では結果を必ずタブレットで報告、担任も可能な限り机間指導、アドバイスを与えるようにと話になった。
- △その場その場での見取りは困難。
- △途中で方向性の修正が必要な児童がいたら正すようにしているが、時間が終わるまでわからない場合もある。
- △ずっと子ども達につけない分、なぜその文章にしたのかなど変容や到達を見取るのは難しい。
- ・せめて教科で同じ場所にするとよいのではないか。お互いに相談しやすくなる。

自由進度学習をうまく進めるためには

- 学習者としてのたたずまいがある。子ども達から学習に対する意欲が感じられた。
- お互いに話し合いながら進めていた。
- 何をしたらいいかわからない子に、個別に指導しやすい。

【小林教授からのご指導】

- ・教室環境を含め、子どもが決定権をもてるようにすることが大事。IRE連鎖：「教師の開始（Initiation）」－「生徒の応答（Reply）」－「教師の評価（Evaluation）」からの脱却。子どもをスタートにすることで、主体的、自立的になる。
- ・見取りの話が出ていたが、教師が介入して同じぐらいの完成度を求める必要はない。グループごとに差異があるのは当然。一律である必要はない。
- ・道の駅のグループの話し合いでは、集客力の高い道の駅と比較することを通して解決策を考えていた。その後、実際に道の駅に行ってみようという話に展開していた。事実に基づき、足で稼ごうとしている。
- ・課題は「対話の充実」と「学びの構築化」。「対話の充実」は、感情がセットになった言葉が表出されるように（かしこまった言い方は、ウソくさくなる。「学びの構築化」は、子ども達からでた困り感や疑問（ズレ）を全体で共有し、子ども達の意欲につなげる必要がある。